

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 伏古公園	評価実施年月日	H21. 7. 10																				
評価実施構成員氏名	ユニット名 1F ぽぷら <table border="0"> <tr> <td>管 理 者</td> <td>下天摩 節 代</td> <td>介 護 職 員</td> <td>小 林 聖 子</td> </tr> <tr> <td>計画作成担当者</td> <td>梅 川 泰 彰</td> <td>介 護 職 員</td> <td>村 山 剛 介</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>嘉 戸 優 希</td> <td>介 護 職 員</td> <td>小 村 小 渡</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>齊 藤 孝 子</td> <td>介 護 職 員</td> <td>林 山 剛 介</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>金 田 彩</td> <td></td> <td>小 村 小 渡</td> </tr> </table>			管 理 者	下天摩 節 代	介 護 職 員	小 林 聖 子	計画作成担当者	梅 川 泰 彰	介 護 職 員	村 山 剛 介	介 護 職 員	嘉 戸 優 希	介 護 職 員	小 村 小 渡	介 護 職 員	齊 藤 孝 子	介 護 職 員	林 山 剛 介	介 護 職 員	金 田 彩		小 村 小 渡
管 理 者	下天摩 節 代	介 護 職 員	小 林 聖 子																				
計画作成担当者	梅 川 泰 彰	介 護 職 員	村 山 剛 介																				
介 護 職 員	嘉 戸 優 希	介 護 職 員	小 村 小 渡																				
介 護 職 員	齊 藤 孝 子	介 護 職 員	林 山 剛 介																				
介 護 職 員	金 田 彩		小 村 小 渡																				
記 録 者 氏 名	下天摩 節 代	記 録 年 月 日	H21. 7. 15																				

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「入居者の安心と安全」「入居者の尊厳のある生活」「地域社会とのつながり」を理念として掲げている。		施設内広報の配布や、伏古公園内でのプランター作りなどを行っている。又行事の際はボランティアの依頼をし地域との交流を図っている。
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	名札の裏に運営理念を入れており、いつでも見れるようになっている。又、その内容については、朝のミーティング、フロアー会議等で日々話している。		スタッフルームに掲示しており、いつでも見られるようにしている。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	常に家族の目に触れるようフロアーの壁に理念を貼り出している。町内会に加入し毎月1回広報を町内会の回覧板に入れてもらいホームを理解してもらうようにしている。	○	地域の中でのアプローチに不足が有るような気がする。毎月の広報の中に理念を盛り込んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	特に、隣近所との交流はないが、散歩やゴミ捨ての時に、挨拶をかわす程度である。	○	町内会に加入しており、その機会を、もう少し活かして行きたい。(行事参加等)
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	伏古公園の夏祭り等に参加し、交流に努めている。町内会に加入しており毎年伏古公園のプランター作りに参加している。	○	プランター作りや夏祭りの参加だけでなく隣近所の方ともしっかりと交流出来る機会を作りたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議でホームで行っている事を参考にしてもらえる部分も有ると思う。	○	地域の高齢者の方との接点を考えて行きたい。(行事への招待、食事会等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	フロアー会議、運営推進会議等を行いスタッフの共通意識を一つにする為努力している。年1回外部評価を受け改善部分を取り組む様になっている。		月1回フロアー会議、年1度自己評価を行い其々の意識を共にする為に取り組んでいる。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に開催し町内会、地域包括支援センター、ご家族を招き報告、助言、意見交換の場になっている。	○	昨年度は年3回開催し、町内会長、民生委員、包括支援センターより出席してもらい、色々な意見を聞く事が出来た。今後も開催回数を増やし、話し合いを続けて行きたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険制度や介護保険法の内容についての確認、あるいは、その他相談事項がある時は、市担当者と話し合いを行っており、区役所の職員の訪問等も受け入れ、サービスの向上に活かしている。		東区の保護課職員の訪問や認定調査の為の訪問の機会を活かしている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が無い為、本等で調べたりする事がある。市社協の実施を通し必要な方には、それらを活用して行きたい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員に周知している。 身体拘束廃止委員会を設置している。	○	フロアー会議等でマニュアルの内容を検討し、意識を高める機会を作りたい。スタッフ全員が把握出来るよう学習できる機会をもつ。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、家族に対し、契約の内容、重要事項説明書、重度化した場合における対応指針等について説明を行い、理解を得ている。本社での対応の他管理者からも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書の中に苦情相談窓口及び苦情処理体制について記載されており、契約締結時、利用者および家族に説明している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ふれあい日誌を送付し、日々の生活を家族に伝えている。金銭管理については、ホームで行なっており、家族には明細等で報告している。その他電話や来所時に近況を報告している。	○	今後も日誌の送付だけではなく、面会時にも様子をお伝えしたり、電話、FAX、手紙等でも特変の有無に関わらず、お知らせするよう心掛けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	13と同様		面会時等を通して、ご家族の希望を聞く機会もある。都度の御意見を管理者やスタッフが話を聞きスムーズに対応出来るように努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回フロアー会議、年1回の全体会議を通して意見交換をしている。運営者、統括、管理者への質問、要望等を伝え、その場での返答若しくは後日返答がある。		会議以外でも随時、報告、相談し対応している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が対応する事柄、スタッフでも対応出来る事柄を見極め話し合いや勤務の調整を行っている。		行事など人数の調整が必要な事柄など柔軟な対応をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在は異動は無く入居者に与えるダメージは無いと思われる。		今後も職員の異動は最小限に抑える配慮が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修や講習に参加し報告書を提出している。	○	希望者のみの参加では無く全スタッフが参加出来るよう取り組んでいきたい。必要な研修は会社から指示にて参加できたら良いと思う。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、定期的開催される市、区の管理者会議に参加しており、同業者と交流する機会を持っているが職員の同業者との交流は無い。	○	他事業者、グループホームを訪問し学習の機会を作りたい。。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に親睦会を行なうなど、職員間の交流に努めている。	○	系列のグループホームとの親睦会だけでは無くホーム内やユニット内での交流も図りたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年に1度自己評価表に記入し個人面談を行っている。		年1度自己評価表を記入し面談を行い、個々の能力を引き出せるようアドバイスを行っている他日々の勤務の中、会議等で意見交換を行い向上心を持てる様図っている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には必ず本人に会い、アセスメントをとる際、よく話を聴くようにしている。また、入居してからは出来る限り、本人から話を聴き、そばにいる時間を持つよう心掛けている。		小さな事柄にも、よく耳を傾け、受け止め対応している。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族からも上記同様に話を聴く機会を作っている。	○	面会時等入居者の様子をお伝えし、御意見には、よく耳を傾け対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をよく聞き都度、本人、家族の意向を受け止める様努力している。	○	入居者が認知症である事をふまえ、御家族、ご本人の意見を聞きスムーズな対応をして行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	新しく入居された方には、他利用者の方と話しをする機会を作るため、話の掛け渡しをしている。また、家族に対しては、出来る限り来訪されるよう協力依頼している。		ご本人と他入居者は勿論の事、御家族とも常にコミュニケーションを取り、他入居者との間に入り工夫を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理を手伝って頂く中から、色々と料理方法などを教えて頂いたり、日常生活の中でテレビを一緒に見て、泣いたり笑ったりして、出来る限り支えあう関係を築くように努めている。		身体的な介助をしながらも、様々な話を聞き、会話の中から知識を得ている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状況に応じて、家族の協力を得たり、日常の様子を伝えるなどして、支えあう関係作りに努めている。また、行事等の参加について声をかけるようにしている。行事等にも家族に参加して戴いている。	○	行事に関しては毎月送付の広報や面会時を通して参加を呼びかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会や電話の際、本人と家族の間に入り、話のかけ橋をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が面会に来た際には、話のかけ橋をするなどして対応している。馴染みの場所については、可能な範囲で対応しているが家族に対応して頂くことも多い。	○	入居者が不穏になった場合や落ち込んでいる時には会話を待つ他屋外へ出掛けたり馴染みの関係を作ったり、場所を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	じゃがいもの皮むきや、もやしのヒゲとり等、一緒にできる作業については、さりげなく参加を促すなど声かけをし、対応したり、必要に応じスタッフが間に入りスムーズにコミュニケーションを取るようにしている。	○	お手伝いだけではなくレクなどを、もっと活用して行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了してからも、時折、状況を聞く等状態に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を十分聞き、本人の意向に沿うように生活して頂く事に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からの話や家族からの情報等から把握するようにしている。またアセスメント、病院等からの情報もスタッフが見れるよう管理している。		個々の連絡ノートを作成し確認し、日々の介護に従事するよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の介護記録から把握するよう努めている。		介護記録と合わせ連絡ノート申し送りなどで職員間の情報交換を行い把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回フロアー会議を開いて、話し合いを行ない、ケアのあり方等について見直しを検討している。また、家族の意見、要望等も聞き、ケアプランに取り入れている。	○	家族からの要望の他医師等の意見も取り入れながら計画を立てている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に(3ヶ月1回)見直しを行なっているが、状況が変化した場合には、その都度見直し、家族と相談しながら、かつ、フロア会議の中で見直しを検討して、計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ふれあい日誌や連絡ノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、御家族の状況、要望が聞けるようスタッフ側」からも声掛け内容に応じられるように検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事等ではボランティアの方の協力を得ている。 また、消防の避難訓練も行なっている。		生保の方への民生委員の訪問、行事でのボランティア来所、消防署員立ち会いでの避難訓練等協力しあいながら支援している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合う機会はない。以前はディケアに通所していた方がいたが現在は他のサービスの利用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者の必要に応じ連絡をとっている。		運営推進会議を通して地域包括支援センターの職員から情報を得る事もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医による2週間に1度の往診があり、また緊急時にも対応可能な体制となっている。日々の健康管理に関しても、電話等で相談している。また、週1回の訪問看護がある。家族希望医の受診、往診が出来ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と相談し、必要な場合は専門医に治療をうけられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと提携し、1週間に1度の訪問を受けて、利用者の健康管理を行なっている。主治医のクリニックの看護師にも相談し支援している。		訪看を通し、雇いつけDRへの連絡もしてもらっており連携は取れている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合は様子を見に行き、家族並びに医師や看護師と相談、情報交換している。ムンテラにも同席させて戴いている。		入退院の際には安心してもらえるよう面会やDR、NSから情報を得て家族、本人とも話し合っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における対応指針を作成しており、又、家族に対しては説明をした上で同意書をとっている。		フロア会議の中でも重度化している入居者について話し合い終末期の対応について話し合っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、主治医、管理者と連携をとりながら、支援に取り組んでいる。	○	会議等で話し合い方針を共通のものにして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族と十分話し合い、本人にとって一番よい方法を検討している。ホームとして可能な限り情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日頃スタッフ同士、言葉の使い方に注意し、プライバシーを守るよう心掛けている。また、個人情報に関する書類については、ロッカーに管理し記録等は他者に見られないように注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人のペースに合わせて希望を聞き、行動ができるように声かけを行なっている。		本人のペースに合わせるようにしているが、スタッフ側の都合になっている場合も有り気をつけて支援して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の意志を尊重し、本人の希望に沿うよう支援しているが、希望に沿えない事もある。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容を行っており、家族に連れていってもらう方もいる。起床時に今日の洋服を選んで頂いたりする。パーマ、顔剃り希望者には送迎あり対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単調理や下準備を共に行ない、食事は会話をしながら一緒にとるように心掛けている。其々の力量に合わせランチマット配り配膳の一部、食器拭き、後片付け等出来る事を出来るだけ行える機会を作り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在飲酒、喫煙希望者はいない。糖尿の場合は主治医に相談し指示を仰いでいる。		なるべく薄味のもの、カロリーなど配慮している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人に合わせたトイレ誘導や声かけを行なっている。自尊心、羞恥心に配慮し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は午後と決まっているがチェック表を活用し日数の空き具合で入浴を支援している。希望者には出来るだけ応えている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調等に応じて居室での休息、仮眠を促し支援している。(自身の意思、スタッフ対応で)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	花壇や畑の水やり、調理の下準備、食器拭きなど、その人が得意とする事を楽しめるよう支援している。	○	本人の得意分野を活かせる場面を作る。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族や本人の希望により、自分で金銭管理している方もいるが基本的にはホームが管理をしている。	○	買い物等に行き支払い、つり銭の受取り等触れる機会を作る必要もある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は玄関先のベンチで外気浴をしシャボン玉を楽しんだり目の前の公園に散歩に出掛けたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	今年度の行事予定に新たな試みがある。	○	希望があれば、ご家族と相談の上支援する。家族との外出は受け入れていきたい。行事での外出の機会はあるが家族との外出の機会は少ない為家族の協力も必要だと思う。日曜日の買い物の際に入居者さんと一緒に出掛けてみたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常的に電話の使用ができる様に支援している。手紙、ハガキでのやりとりをしている。		本人の希望により、職員が電話をし用件を伝えることもある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時、お茶を出すなどして、いつでも気軽に訪問できるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフがいつでも見られる様にしており、委員会も設置している。現在は行っていない。	○	口頭でのマニュアルを説明する機会を作りたい。急変時に備え素早く対応出来るよう連絡体制、マニュアルに沿った訓練が必要だと思う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	部屋のカギはご本人の自由にしている。 玄関については、防犯の為、夜間施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ほとんどの方が居間で過ごす事が多いので、いつも目配りができている。 又、居室内の状況を把握する為、時折、訪室している。 夜間は、3時間毎に巡回を行っており、安全の確認をしている。	○	外に出たがる方が居る為特に注意をしている。フローア入口にドアベルをつけて出入りが、判るようにしているが状況に応じてセンサーでの対応も検討すべき。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の馴染みの物は出来るだけ残しているが刃物等は同意を得てお預かりし、必要な場合はスタッフや家族の付き添いのもと使用する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる。	避難訓練や救命救急講習に参加し、事故防止に取り組んでいる。	○	まだ参加していない職員は随時参加できるように取り組んでいく。時間が経つ と忘れてしまう為、年1回は講習参加の機会が欲しい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	救命講習に参加している。	○	急変時的確に素早く対応出来る様に連絡体制、マニュアルの徹底と定期的 な訓練が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	年2回消防署職員立ち合いのもと、避難訓練を行なっている。	○	消防署の協力は得られるが地域の人々の協力を得られるよう対策を検討 する必要がある。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	家族にケアプラン説明時や面会時に話し合ったり、起こり得る内容を伝え対処方法も 説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	申し送りや連絡ノート、口頭で行なっている。トイレ、入浴介助時等都度状態確認を 行っている。		状況に応じて主治医、看護師、訪問看護師に報告指示を仰いでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	処方せんをファイルし、いつでも確認できる状況になっており、全職員が把握して いる。 服薬前後の様子を見るように心掛けている。		服用前に名前、日付、いつの薬かを本人に確認し飲み残しがないように確 認している。チェック表にて誤薬の無いよう全スタッフで対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操や水分補給に努めており、場合によっては下剤を使用している。		便の形状によって減らしたり止める等の対応をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自力で出来る方は見守り、声掛け、一部介助で対応している。(口腔ケア指導のもと)必要に応じ訪問歯科による検診や診察を受けている。全介助で行う方もいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事量、水分量をチェックし、1日を通して確保できるよう支援している。水分摂取量の少ない方には好きな物を奨めて飲んでもらっている。		入居者様の健康管理を重点においており、水分等必要な方には、1日の摂取量をサポートしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、いつでも見る事ができる。手洗い、うがいの実施を徹底している。漂白剤を使用し掃除を行っている。		受診や外出時はスタッフ、入居者共にマスクを着用している。来所者にも手洗い、うがいを、お願いしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきん類は毎日消毒している、週に3回買物をしており、新鮮で安全な食材の使用に努めている。毎週1回冷蔵庫の掃除を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム前にはプランターやベンチを置き憩いの場になっている。ホーム横に自販機を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	動物や行事の写真等を飾り和みやすい空間になっている。居間には畳、ソファが有り自由に寛げる工夫をしている。	○	レベルの低下も有り畳を外しソファを増やし空間の有効活用も必要では無いのか？畳を外す時期の見極めも必要だと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関フードにベンチを置いてあり、居間にはソファーを設置し、また、畳を敷いてくつろげる場を設けている。		いつでも外気浴ができるようにベンチを設置している。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に説明し、今まで本人が使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地よく生活できるよう配慮し希望に沿っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者の方に確認して、換気や空調を行ったり、温湿度計を目安に適宜行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し、玄関にはスロープを設置するなど、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室は表示をして、わかりやすくしている。 居室の前に表札をつけ写真の掲示をし判りやすくしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲に置いてある、植木鉢に水をやったり、畑に行ったりホーム前のベンチで外気浴するなど、楽しめるようにしている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		